

会話は邪魔されず、それでいて音楽を細大漏らさず堪能できる「エムズシステム」の波動スピーカー。大日本住友製薬・常務執行役員の前田博之さんは、それまでの愛機タンノイから衝撃の出会いとばかりにエムズ一筋15年以上。筐体をショウケースに見立てるエムズシステムの「スケルトンスピーカー」に、苔を入れることを思いつき、会社受付ロビーに設置するスピーカーをフルカスタムしてしまっただけから、持つべきものは音楽好きの上司といったところ。名前も一聴瞭然、モスとスケルトンからの命名。

「テレビで観て、苔っていいなあと思っていたところ、たまたま会社の近くにあるベル・フルールというブリザーブドフラワー専門店が苔のオブジェを見つけて、思いつきました」（馬場さん）

苔のエバグリーンでいる姿に同社のコーポレートカラーのグリーンを重ね、苔に植生する草花には医療用医薬品メーカーとして多様な健やかさを追求するメッセージを象徴できると直感したそうだ。

「お客様を迎え入れるモノとして作ったのですが、水槽と勘違いする方も多いので、帰り際にきちんと説明します（笑）」（馬場さん）。ずっと眺めていられるスピーカー、との評判は苔のなせるワザ。自然の景観を限定空間に再現する日本文化の系譜とも見えるモスケル。声高でなく、でも確実に鳴っている音楽の向こうに苔庭空間が出現していた。



筐体に入るサイズに合わせてフラワーデザインを検討し、完成までに3ヶ月。社名の「DSP」をスワロフスキーであしらい、右肩上がりに文字配列する等線起モノでもある。

モスケル？

苔生したスピーカーなんて聞くと、正直ナイスサウンドって感じはしないけども、スピーカーメーカーにフラワーデザイン、そして医療用医薬品メーカーの異能が集まって生まれた異色のスピーカー「モスケル」は、そんな思い込みをモノともしないモノだった。

写真／熊谷義久 取材文／モノ・マガジン編集部



同社・社員食堂にもエムズのスピーカーを導入(写真・下右)したり、グループ会社に小さいサイズの「ミニモスケル」(同・下左)を作るなど、職場とは思えない聴覚環境。「エムズシステムのスピーカーは近くに居て煩くなく、遠くに居て聞こえづらくなることはない。ジャズを聴くには間違いなくベスト」(馬場さん)。右上/自宅のスピーカーにも苔があしらわれている。

